

令和7年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月9日実施)	総合評価 (3月27日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①課題研究による探究する力を育成するシステム構築 ②4系、1分野の教育目標の確立と総合産業科としての特色ある教育課程の実現 ③国際理解教育と先端情報教育の基礎を身に付ける教育課程の編成	①必修化した課題研究 I を意義深いものにする。 ②総合産業科目に策定された教育目標と生徒育成目標を反映させ、実践する。 ③国際理解教育や情報教育の学習活動を充実させて積極的に取り組んでいく。	①発生する問題に対し、組織的に対応するとともに、次年度に向けての改善点を整理する。 ②各系・分野の目標と総合産業科の科目との関連づけについて検討する。 ③国際教育に関するプログラムの推進・充実を図る。 ③「情報」関連科目の領域・分野と履修モデルへの接続・位置づけの確定に努める。	①諸問題を解決し、1年間を通して課題 I を実施できたか。 ①来年度への課題を挙げることができたか。 ②策定された目標と各科目の学習目標との内容を検討・精選できたか。 ③オンライン等を活用し、8割以上の生徒が参加できたか。 ③新規開講科目の準備や教材開発を進めることができたか。	①発表会等で充実した内容の研究結果が発表された。 ②前年度策定した各系・分野の教育目標や生徒育成目標に照らし合わせ、実際の学習内容や学習活動との関連性を整理し、達成に向けての授業研究や授業デザインの設計を行った。 ③様々な国際理解教育のイベントを開催し、のべ400人強の生徒が参加した。それ以外にも長期留学生を受け入れクラスメートとなった生徒が150人、さらに同じ授業を受けて関わった生徒も多数見られた。 ③DXハイスクール事業の一環として、カリキュラムの整備を行い、情報科・電気科それぞれでDX対応科目を開講できた。	①必修化に伴い、課題研究 I と II の接続がどうなるか見守る必要がある。 ②教科全体の取り組みにするための仕組みづくり、進路・職業選択への繋げ方の検討、主体的協働的な態度を養うためのさらなる授業改善等の取り組みが必要である。 ③任意参加行事が多いという事業の性格上、何割が参加したかという割合を測ることは困難であるが、実績の整理や総括を行いたい。 ③来年度開講予定のDX対応科目の準備を進めると同時に、既存科目の内容の充実も合わせて改善を進めている。	「教育課程」については、基礎学力の定着を重視しつつ、生徒の理解度に応じた指導や補習体制の充実が重要である。また、DXの推進により、ICTを活用した授業や学習支援が進んでいることは、生徒の学習意欲向上にもつながると期待している。	①日ごろの授業で取り組んだ研究成果を研究成果発表会で報告することができた。 ②教育目標や生徒育成目標に準じた学習内容や教育活動との関連性を整理し、授業改善に向けた計画を立案することができた。 ③年間を通して国際理解教育のイベントを企画・開催することができた。また、長期留学生を受け入れた結果、生徒からも好評であった。 ③DXハイスクール事業に対応したカリキュラムを構築することにより対応する科目を開講することができた。	①必修化に伴う科目など今後も引き続き検討が必要である。 ②今後も教育目標や生徒育成目標に対応するために各教科や進路指導・職業選択など生徒に合った授業改善等に取り組む。 ③各種イベントは任意参加での企画が多いが積極的に参加する生徒の増加を目指す。 ③先行してDX対応科目の開講準備や授業内容の計画を進めるとともに、既存科目の内容についても関連性の充実を図っていく。
2	(幼児・児童・) 生徒指導・支援	①生徒一人ひとりの豊かな人間性を育み、社会性を身に付ける学校行事の実施 ②生徒理解に基づく生徒指導や支援、教育相談体制の確立	①各学校行事の目的と開催時期を引き続き整理し、行事の内容をより教育目標に合わせるための検討をする。 ②生徒支援体制と教育相談体制の見直しを図る。	①学校行事の目的・目標を明示し、教育活動としての学校行事の意識を高める。 ②各年次、SC、SSW等の連携体制の強化を図り、生徒心得の周知徹底に努める。	①学校行事の目的、目標を生徒および職員に明示し、教育活動として意識した学校行事が行えたか。 ②退学者、生徒指導件数が減少したか。	①学校行事では、教職員から学校教育目標を意識した教育活動を実施することができた。全職員の協力の下で充実した学校行事が行われた。 ②SC、SSWへの相談件数は非常に多く、担任と教育相談コーディネーターの連携強化が図られた。	①行事の実施時期については引き続き検討が必要である。また、カリキュラムマネジメントを意識した学校行事へよりよい学校行事のあり方を引き続き考えていきたい。 ②指導件数は昨年と同様の水準だが、危機管理の低下による指導内容が多かった。	学校生活で不安や悩みを抱える生徒も多いため、安心して相談できる体制づくりが重要である。生徒向け講演会については、現在3年次対象は1回のみとなっている。回数を増やすことを検討してはどうか。例えば、卒業後の将来に関わる「年金講話」など。	①教育活動を活性化するために学校行事では、目的や目標を明確にして、全生徒・全職員で協力しながら充実した学校行事を実施することができた。 ②教育相談など生徒や保護者への周知に努めた結果、SC、SSWへの相談件数が増え、教育相談コーディネーターの連携強化を図ることができた。	①各学校行事の実施時期や行事のあり方、行事内容について引き続き検討が必要である。 ②相談内容や指導件数は昨年と同様の内容や水準だが、各年次によって取扱う内容が異なるため、今後も学校全体として最新情報を共有するように努める。
3	進路指導・支援	①総合産業科としての進路指導目標の策定 ②3年間を見通したキャリア支援計画の策定 ③生徒の希望する進路の実現	①総合産業科で育まれる進路実現に必要な力(能力・態度等)の明確化する。 ②3年間の進路計画の策定をする。 ③進路希望の把握と組織的な進路支援体制の確立を図る。	①各教科・科目で学ぶことで得られる能力を明文化する。 ②3年間の進路指導計画の策定をする。 ③進路ガイダンスの組織的な計画を行い実施する。	①各教科・科目で学ぶことで得られる能力を言語化できたか ②進路行事を体系化して、全職員・生徒・保護者へ発信できたか。 ③生徒の進路希望が実現できたか。	①②それぞれの骨格を策定し、教科および全職員と共有することができた。 ③生徒の進路希望を概ね実現することができた。	①②それぞれ明文化および策定したもののブラッシュアップを重ね、生徒・保護者に発信していきたい。 ③全職員共通理解のもと、各年次の状況に合わせた進路支援体制の確立を考えていく必要がある。	進路指導については、進学・就職に向けた情報提供や面談の機会が生徒の安心につながると感じている。	①②総合産業科として進路実現に向けた取り組みを全職員と共有することができた。 ③生徒の進路希望の把握と組織的な進路支援体制の確立が概ね実施することができた。	①②今後も進路活動について生徒・保護者に情報発信していきたい。 ③今後も学校全体で進路支援体制を整え、生徒の進路希望が実現できるように取り組む。

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月9日実施)	総合評価(3月27日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
4	地域等との協働	①地域の小中学校や自治会など近隣地域との連携 ②学校の情報を広く地域に発信 ③近隣の大学(研究機関・企業)等との連携	①コミュニティスクールを利活用するとともに、地域および他校種との連携を図る。 ②HP等により学校の取組や生徒の様子を多く情報発信していく。 ③大学等との連携事業(授業等)に努める。	①自治会等への催し物・ボランティア活動へ積極的に参加する。また、学校紹介講話などで他校種と連携し、近隣地域との繋がりを強くする。 ②ホームページの運用を学校全体で行い、更新頻度を高める。	①各種行事の開催、地域へのボランティア活動へ参加等が実施できたか。 ②複数校の中学校への学校紹介を実施し、地域と連携することができたか。 ③行事毎にHPの更新を実施できたか。	①地域連携活動として、7月と11月の地区のお祭りに参加し、本校ジャズバンド部の演奏や大道芸部の披露を行った。文化祭では自治会の展示を行うなど、学校と近隣地域との繋がりを持つことができた。 ②本年度は、中学校6校の進路講演会講師として学校説明を行い、本校の特色をアピールした。 ③各行事をHPに掲載し、教育活動の現状を広域に発信することができた。	①本年度実施できなかった小学生や中学生向けの出前授業や体験教室を検討し、ものづくりや情報の発信拠点としての役割を、さらに広く周知していく必要がある。 ②学校の特色をアピールする場として、中学校の進路講演会への参加数をより多くしていくために、周知活動が必要である。 ③行事をHPに掲載することはできたが、より本校の魅力的な内容が広く伝わるよう、内容を精査していきたい。	学校が地域社会とつながりを持つことが、生徒にとって貴重な学びや経験につながると感じている。 地域行事や外部機関との連携を通じて、生徒が社会と関わる機会が増えることを期待する。 生徒支援グループが実施している「スケアードストレート交通安全教室」を毎年開催しているのであれば、中学校の生徒にも見学の機会を提供することで、地域等との協働の促進につながる。	①例年実施している近隣地域との連携活動について定着してきたと感じている。 今後は、広域地域からの連携活動を図っていきたい。 ②引き続き、中学校との連携を深め、進路講演会講師などを通して本校の魅力特色や学校紹介に努めたい。 ③広報活動の一つとして学校HPを活用し、教育活動や学校行事など最新情報を広域に発信していく。	①小学生や中学生向けの最新情報を発信して、さらに広域に広報活動する必要がある。また、体験授業なども活用して、ものづくりの発信拠点として努めたい。 ②本校から小学校や中学校へ積極的に魅力特色をアピールして、周知活動を向上させたい。 ③学校HPの活用方法について精査し、本校の魅力特色が広域に伝わるような内容検討が必要である。
5	学校管理 学校運営	①事故・不祥事の未然防止と教職員の実践的指導力の向上 ②生徒の防災意識の向上と防災教育の推進、学校の安全管理体制の確立 ③学校行事の目的と実施体制・時期の整理 ④教員の働き方改革、ライフワークバランスの推進	①事故・不祥事防止に努める。 ②防災訓練の実施と防災教育の推進を図る。 ③学校行事の目的や実施体制・実施時期について整理し確立に努める。 ④働き方改革に向けた業務の効率化を目指す。	①啓発資料を活用して不祥事防止会議を開催し職員へ周知する。 ②防災訓練の実施に向けた学校の安全管理体制点検を行う。 ③式典の充実に向け、関係グループと連携を密にして行事を円滑に運営する。 ④グループ間連携の充実を図る。	①事故・不祥事がゼロであったか。 ②防災教育を実施できたか。大規模災害を想定した生徒・教員等の学校関係者が連携した訓練を実施できたか。 ③式典などが円滑に運営できたか。 ④グループ間の連携は推進できたか。	①啓発資料を活用して職員に周知することができた。 ②10月に地震発生に伴う火災を想定した避難訓練を実施し、DIG研修では、ロイロノートを活用し実施できた。 ③式典関係は、関係グループと連携し円滑に実施できた。 ④各グループ間での業務連携を図ることができた。	①事故・不祥事防止に努めることができた。 ②避難訓練に要する時間が短縮できそうである。 ③式典では、準備段階でさらに円滑に運営していく必要がある。 ④中長期的な計画を立てながら連携推進することができた。	災害時を想定した「ロイロノート」の活用等の非常時にも学びを止めない体制づくりが進められていることは評価できる。今後も、安心して安全な学校運営の継続を期待する。	①事故・不祥事防止会議などで啓発資料を活用して周知することができた。 ②生徒の防災意識の向上に努めた。DIG研修を実施することができた。 ③学校全体で式典関連に取り組み実施することができた。 ④今後も各グループ間での業務連携を強化していきたい。	①今後も事故・不祥事防止に努める。 ②充実した防災教育を実施するために具体的な内容を再度検討する必要がある。 ③今後も学校行事の実施時期や目的について継続して検討する。 ④働き方改革に向け業務の効率化を図りたい。